

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490700067	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホーム みのり 丸ちゃん・山ちゃん		
所在地	(〒235-0001 )		
	横浜市磯子区丸山1丁目16-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年3月18日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホームの理念である「おいしく食べて心も体も健康に」を開設当初から柱として、新鮮でおいしい食事を提供できるようにと毎日取り組んでいます。</li> <li>・季節の行事、誕生会、外食、ホーム近辺の散策、町内の餅つき、敬老会や盆踊り大会等のイベントに参加し、外の空気に触れて、地域の方々とふれあい、単調な生活にならないように、スタッフ同士で企画を立て実行しています。</li> <li>・医療機関と連携し、24時間体制で体調変化の早期発見に留意し、速やかな対応を心がけ、重度化を防いでいます。また、住み慣れたグループホームで最期を過ごしたいと希望なさった方には、十分な話し合いを持ち、医師、訪問看護師のもとで看取り介護を支援しています。</li> <li>・ご利用者様の尊厳を第一に考え、それぞれの思いに寄り添い、個性を大切にされた支援をこころがけ、実践しています。</li> </ul>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年3月25日	評価機関 評価決定日	令和3年6月9日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、JR根岸線根岸駅、磯子駅からバスで10分、最寄りのバス停から5分ほどの住宅地にある。道路を挟んで事業所の目の前にはスーパーマーケットがあり便利な場所である。道路に沿って低層のマンション、文教施設、コインパーキングなどがあるが、裏手は静かな住宅地が広がっている。事業所は軽量鉄骨3階建てで、1階は同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所、2階、3階が2ユニットの当事業所になっている。</p> <p><b>【医食同源に基づく日々の暮らし】</b> 理念を「おいしく食べて心も体も健康に」としている。開設時から「食」にこだわり、利用者が「食」を通して楽しみ、喜び、癒され、体も心も健康に毎日過ごせることを基本にしている。調理担当の職員が3食丁寧手作りした食事は、利用者や家族からも好評で、食事のたびに「おいしい」の声が聞こえている。利用者は野菜の下処理や、食器洗い、食器拭きなど、できることを手伝っている。おやつ作りのレクリエーションでは、おはぎ作りや誕生日のケーキ作りなどを職員と一緒に楽しんでいる。おはぎ作りは、小規模多機能型居宅介護事業所の利用者分を含めて合計150個作り、皆に喜ばれた。</p> <p><b>【万全の対策を取った外出支援】</b> 町中の事業所であることや、階下に小規模多機能型居宅介護事業所があり、玄関を共有していることから日常的な散歩や外気浴なども新型コロナの感染対策で自粛してきた。利用者がホームからなかなか外に出られないため、どうすれば気分転換になるかを職員が検討し、少人数でのドライブレクを実施する事とした。当日の職員配置、天気などを考慮し、行先で外部の方と接触せずに済むように職員が事前に下調べをし、車の換気やマスク等感染症対策を施し実施した。久しぶりの外出に利用者から喜びの声や笑顔がみられた。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみのり
ユニット名	丸ちゃん山ちゃん

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の食生活の充実ともう一つの理念である「認め合って、支え合って、その人らしさを大切に」をスタッフで共有し、職員間の連携をはかり、ご利用者様の個性を尊重し、ケアにつなげています。	理念は開所時に法人の前社長が考えて作成している。グループホームは利用者が主体的に生活できる場所で、利用者の自宅であるという考えに基づき、利用者の気持ちを優先したケアを実践している。また、ホームの運営方針は医食同源を基本としている。「おいしい」と利用者から声が上り、食事を通して楽しみや喜びを感じられることを通じて、健康な心と体づくりを支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様は、地元の方も多く、餅つき大会、夏祭り、敬老会に参加し、親しくしていた方に声がかかり交流があったが、新型コロナウイルスの影響で、行事が中止になっている。	外出時に近隣の方と挨拶を交わしたり、地域の行事に参加をしていたが、新型コロナの影響でできなくなっている。自治会とは開設時から職員の研修に自治会館を借りたり、地域の文化祭に利用者の作品を出展するなど良好な関係ができています。地域の商店での食材購入や、地元のケーキ屋で誕生日のケーキ購入など地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域との交流の際に、日頃のケアの中から得た事等を具体的に発信し、地域の方々が気軽に訪問して、相談窓口となる様に努めている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回、運営推進会議を開き、近々の活動状況をお伝えし、地域の方、ご家族から出された意見やアドバイスを伺い、サービスの向上に役立てています。※運営推進会議は新型コロナウイルスの影響で実施できていない。</p>	<p>運営推進会議は、階下の小規模多機能型居宅介護事業所と2か月ごとに合同で開催していた。新型コロナの感染防止対策で、令和2年1月以降は書面開催として報告書を参加メンバーに送っている。メンバーは利用者、自治会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員である。地域包括支援センター職員からは研修情報、民生委員や自治会副会長からは地域情報などを得ている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>折に触れ、電話連絡等で、地域全体の状況や近隣の町内会の情報等を伺って、ご指導をいただいています。空室情報を共有し、新入居に繋げています。</p>	<p>区の生活支援課とは、生活保護受給の方が医療機関への受診や緊急搬送の必要性がある場合に報告をし、連携した支援をしている。また、地域包括支援センターとは、運営推進会議に参加してもらい情報提供を受けたり、地域ケア会議への出席要請があるなど、協力関係を構築している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと決められていますが、認知症の進行でやむをえず、検討しなければならない時は身体拘束（施錠、ベルト、サイドレール）の説明と同意を家族からいただき、必要な時、必要でない時を判断し、対応できるようにミーティングで話し合いをします。	身体的拘束適正化委員会3か月ごとにフロア会議の中で行っている。委員会では、帰宅願望の強い方が帰宅願望に囚われることなく穏やかに過ごせる環境整備や、適切なケアに努めていくことの必要性などを話し合った。実践に移した結果、行動が収まった事例がある。ユニット出入口、エレベーターは施錠をしていないが、1階の玄関は小規模多機能型居宅介護事業所と共有していることや、道路に面している為、安全を優先して施錠している。職員の不適切な声掛けがあった際は、管理者やリーダーが都度指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修をスタッフも受ける機会が増え、意識が高まりつつあります。施設内でも何気ない言動が虐待にならないか、お互いに注意をはらっています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が各フロアーにいらっしゃり、制度についての知識が浸透しつつあります。必要とおもわれる方、関心をもたれた方には、制度の説明、内容等をお伝えしています。			

9		<p>○契約に関する説明と納得          契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は契約書を声にだして読みながら、ひとつひとつ説明をし、納得いただいています。契約締結後も家族にホームでの様子を伝えて、話しやすい関係ができるようにつとめています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見ボックスを設置して、家族や関係者から頂いた意見や要望をミーティングにあげて、意見を出し合い、改善すべき点は直していき、記録に残します。</p>	<p>面会時や電話連絡をした際に意見や要望を聞くようにしている。現在、新型コロナウイルス感染症対策で面会を全面禁止にしているが、家族から、面会希望が出ている。その他に外部医療機関を受診する際の付き添いの要望があるが、職員のシフト変更を伴う為、対応方法を検討している。家族の面会や行事参加も多く、職員は家族と直接話ができる関係を築いている。</p>	<p>家族から個別の意見や要望を聞いていますが、運営に関する意見交換をする機会がありません。運営推進会議に家族の参加を再度呼び掛け、運営に関する事案などを話し合われることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや業務の合間で意見、情報の交換を行い、月に1回フロアミーティングやリーダーミーティングで議題にあげて皆で検討します。	毎月のフロア会議と管理者、フロアリーダー、介護支援専門員、計画作成担当で構成するリーダー会議がある。フロア会議は、ミニカンファレンスや利用者全員のモニタリングも兼ねている。また、自由に意見が言えるフリートークの時間を設け、活発に意見交換をしている。会議は全員参加を基本としているが、参加できない職員は事前に申し送りノートに話したいことなどを記入している。職員からの提案で、転倒リスクが高くなった方が室内履きを履いていることへの懸念が出て、介護シューズに切り替えリスク回避につながった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場を目指して努力や実績が給与、役職等に反映できるようにしています。		

13		<p>○職員を育てる取組み          代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は職員のシフトを作る時は個々の希望を考慮しながら組み、働きやすい環境にして、スキルアップのための研修は積極的に参加できるようにバックアップしています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上          代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に加入し勉強会や他のグループホームとの交換実習に参加して、お互いの良かった点、改善すべき点を学びながら交流しています。同法人内での交流や情報交換は日頃から活発に行われています。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しくいらした場所が安心できる所だと思っただけのように、お声かけをおこなったり、お話をじっくりと伺い不安な要素を取り除く様にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が納得して入居を決められる様に、迷っていることや、不安なことが解消されるように、話し合いの機会を設けたり電話で連絡を取り合ったりして信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活状況を伺い、何が必要とされているか見極め、情報収集に努め、ケアの方針を決めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じて、できる事を大切にし、ご利用者様と職員が共に支え合う関係が築けるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望、要望を伺ったうえで、ご利用者様とご家族の良い繋がりが保てる様に、季節の行事、運営推進会議等へ参加していただき、ご家族と職員が協力してご利用者様を支えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多くこともあり、入居前に利用なさっていた地域の美容院や馴染の店、通院等はずなかりを切らないようにしてはいますが、新型コロナウイルスの影響で、制限が出てきています。	新型コロナ禍で、定期的な友人の訪問や、家族との墓参りや、年末の親族の食事会、通院時の家族との外食などもできなくなっている。地域から入居している方も多く、階下の小規模多機能型居宅介護事業所を利用していた方は、同事業所の利用者や職員とは顔馴染みで、顔を合わせた際は「お久しぶり」と挨拶を交わしている。入居前からしていた居室の掃除や、食器拭き、洗濯物を干したり畳んだりするなど多様な家事の継続支援や、コーヒーなどの嗜好品は生活習慣の継続として提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で役割分担を決めたり、時にはひとつのことに皆でかかわったりしながら、よりよい関係性を築くようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、他施設へ移られた方に面会に行ったり、その後の様子をご家族から知らせていただいたり、移られた入院先や施設との情報交換もおこなっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の思い、意向を伺い、出来る限りこれにそえる様に努め、介護計画変更時に記載して全職員が把握できるようにし、また、これまでの言動等から類推し思いや意向にそえる様に検討・実行を行っています。	面会ができないことから利用者が「家族に会いたい」と言う時には電話で話をしてもらっている。利用者の話から食べたい物を把握することも多くあり、「肉まんが食べたい」という声からおやつに肉まんを提供して喜ばれた例がある。「おしゃれをしたい」という利用者の思いを家族に伝え、新しい洋服を持ってきて貰った。重度化して寝たきりになった方には、できるだけ孤独感や喪失感を感じないように職員が頻回に顔を出して声をかけ、表情の変化などで思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のファイルがいつでも手に取れる様、スタッフルームに保管し、全職員がご利用者の生活歴、生活環境を把握し、日々のケアに活かし、其々の個性に合った対応を行い、尊厳を大切にしたケアに繋がっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、申し送り帳、ミーティング等で、一日の様子、ADL、新しい発見、利用者さまのさりげない言葉を、記録に残し職員全員が共有・把握出来る様に努めています。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング        本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者さま、ご家族の思いや意向を伺い、現状にそくした暮らし、ケアの方向を把握し、医療職等の見解を取り入れ介護計画を作成し、日々個人記録にも載せ、ケアに反映させる様にし、モニタリングは3か月/1回を基本として行っています。</p>	<p>新規入居者の介護計画はあせADLを重視したアセスメントに基づいて暫定的な計画を作成し、1か月様子を見て見直しをしている。新しい環境での生活は利用者にとって大きな変化のため、さみしい思いを感じさせないことを考慮した介護計画を作成している。新たな生活に慣れたところで本人の声を聴き要望などを介護計画に取り入れている。個人のケース記録の上段に介護計画の目標を記載して計画に沿ったケアの実施をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映        日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画が分かり易く記載された個別記録に、日々様子や行ったケアの実践・結果等を記入し、職員間の情報共有を行い、ケアや介護計画の見直しに役立っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人に限らず、他施設との交流、連携をはかり、多様化するニーズにおこたえできるようにしています。※他施設との交流は、新型コロナウイルスの影響で制限あり。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響、ご家族の高齢化もあり、実施できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院を希望なさる方には継続して受診できるように協力し、受診時の状況、処方薬をきちんと把握し、ご利用者様の状態の情報提供をおこなっています。	従来からのかかりつけ医に家族対応で受診している方1名を除いて、2つの医療機関（内科医）の訪問診療を受けている。両機関ともに24時間オンコール対応となっている。訪問看護師は原則週1回、利用者の健康管理に来ている。訪問歯科医は必要な方の治療や口腔ケアに随時訪れている。外部受診の受診記録は申し送りノートやケース記録に記載して職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護師の信頼関係ができており、普段の生活の中での小さな変化や気づきを伝えて迅速な対応、指示を受けています。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院となった場合は入院先の主治医と連携をとり、時には直接お会いして退院後の生活が安心して送れる様に、指導、助言をいただいています。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する施設の方針をお話し、段階を経て、ご家族、医師、看護師で話し合いをし、同意が得られたときは看取り介護を行えるようにしています。	重度化・終末期について契約時に方針を説明している。終末期が近づいた時点で医師、家族、事業所で話し合い、家族の希望があれば同意書を交わし、看取りケアを行っている。令和2年度は4月から4人の方の看取りを行った。ベテランの職員が、経験の浅い職員のケアの指導や精神的な不安を軽減するためのフォローをしている。看取りの研修は以前、納棺師から心構えなども含めて受けている。また、訪問看護事業所の管理者からの確なアドバイスもある。看取り後は振り返りを行い、経験の浅い職員の精神的なケアもしている。家族から感謝やねぎらいの言葉がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム開設からの職員もいて、ご利用者様の急変や事故発生時の対応には経験を積んできていますが、今後もミーティングや研修を通して実践力を身に付け、経験の浅いスタッフに指導ができるようにしていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に、ご利用者様が安全に避難できるよう留意し、地域の方にも、協力をお願いしています。但し、新型コロナウイルスの影響で、避難訓練は実施できていない。	令和2年1月以降避難訓練ができていないが、それ以前は1階の小規模多機能型居宅介護事業所とは、毎回合同の訓練をしていた。令和3年度は夜間想定を含めて訓練の方法を事業所単位にするかなどを検討している。新型コロナ禍以前は	

				地域の防災訓練に参加をしたり、地域の方から訓練への協力も得ていた。災害用備蓄は1階の小規模多機能型居宅介護事業所分、職員分を含めて3日分の備えがある。	
--	--	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、それぞれのプライバシー、人格を尊重し、心のこもった丁寧な声掛けを行い、入浴や排泄の際は、ご本人の意思を大切にして支援を行っています。	利用者は人生の大先輩として尊厳に配慮した言葉遣いをするようにと、管理者は常に指導している。職員は、排泄介助時の声掛けは特に配慮するように心掛けている。名前の呼び方は基本苗字だが、本人の希望で下の名前で呼ぶ方もいる。パソコンは使用者を限定し、パスワード管理している。個人情報を含むファイルは事務所のロッカーで施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の気持ちに寄り添い、その思いや希望を受け止め、ご自身に物事を決めていただけるようにしています。また、ご自身の思いや希望を表しにくい場合は、日常の言動から職員が推測しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事の時間、日中の活動時間はだいたい決めてありますが、参加は本人の意思で決め、その日の体調やペースに合わせて生活できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装はご本人に好きなものを選んでいただき、洗濯はこまめにし、整髪、髭剃り等常に、清潔、整容を心がけています。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>美味しい食事を皆で楽しくできるように、それぞれの咀嚼する力に合わせて、食材に切れ目を入れたり、刻みにする等工夫し、配膳、盛り付け、食器の片づけを職員と一緒にを行い、手際の良さを発揮されています。</p>	<p>食材は、調理専門の職員が立てた3食のメニューに基づき近隣のお店などから仕入れている。朝食は調理担当職員が作った常備菜に、主食とおかず一品、汁物は職員が作っている。理念に食の大切さを掲げており、毎日の食事は利用者家族からも「おいしい」と好評である。誕生会のケーキは購入することが多いが、時には皆で手作りを楽しんだり、お彼岸のおはぎ作りをレクリエーションに取り入れ、作る楽しみも提供している。</p>	
----	----	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量を必ず記録に残し、食が進まない方には好きなものを食事時間以外に召し上がっていただいたり、水分摂取が少ない方には好みの飲み物をすすめた上で、栄養・水分確保が不足する場合は医師、看護師に相談します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おひとりずつに合わせた口腔ケアを行い、必要な方は、訪問歯科の往診を依頼し、治療や助言をいただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン、習慣を職員が把握し、タイミングを見計らって誘導をし、トイレでの排泄を第一に考え、清潔に過ごしていただくように支援をしています。	布パンツを使用しており、排泄時には職員の見守りのみの方が2名いる。その他の方はリハビリパンツ、またはリハビリパンツにパッドを使用している。重度の方も日中はなるべくトイレでの排泄を支援しているが、無理の無いようにベッド上でパッド交換をする方もいる。夜間は睡眠を優先するなどできるだけ利用者の負担が少ないように支援している。トイレの掃除は最低でも1日2回以上、汚れたら都度清掃して清潔の保持に努めている。手に触れるところは次亜塩素酸の希釈液で拭いている。	

44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎朝、体操で体を動かし、十時のお茶の際は、ご本人の好みの飲み物を飲んでいただき、排泄表で排便の有無を確認し、下剤を処方されている方は服薬していただいています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>原則として週2回の入浴を行い、体調、身体状況に合わせて、シャワー浴をとりいれたりし、入浴を楽しんでいただけるように工夫しています。</p>	<p>週2回、午後1時30分から3時にかけて入浴をしている。全介助で時間のかかる方は午前中に入浴にしたり臨機応変に対応している。入浴を好まない方には、好きな入浴剤や一番風呂で誘うなどにより効果を上げている。利用者の同性介助や順番等の要望にはできるだけ配慮している。浴槽の湯はかけ流しにしている。浴室、脱衣場は暖房機が設置され、ヒートショック対策をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は特にきめず、ご利用者様のリズムに合わせて、必要な方には、昼寝も取り入れています。リネンは清潔なものを使用し、部屋の温度、湿度、照明にも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的、用法、用量を薬情報提供書で確認し、把握し、服薬時には、ご本人に確認していただき、職員二人体制で、服薬チェック表を用い、目視して服薬していただいています。薬の変更があった時は申し送り帳に記載し、職員全員が把握できる様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好みを把握し、それぞれが楽しく過ごせる様に、レクリエーション、外出支援を行い、役割分担を持つことによって張り合いのある暮らしが出来る様にしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、新型コロナウイルスの影響で、対策をきちんととったドライブ（車から外には下りない）を行っています。ご家族、地域の方とも、面会禁止の為、協力しながらの外出支援はできません。	新型コロナ禍以降は、日常的な散歩や外気浴もできなくなっている。換気の時に窓を開け、外の景色を眺めている。利用者がストレスを溜めないように、月2回くらい事業所の車で順番にドライブに出かけている。ドライブ先の無人スタンドで餃子を買ってきたり、焼き立てのカステラをお土産に買ってくることもある。今後も桜見物など少数	

				のドライブを続ける計画にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は所持していただき、支援の必要な方には行事、外出等のときに、ご自分で支払が出来る様にお手伝いしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたくなくなった時や、電話での連絡が必要な時は、いつでも利用できるようにしています。FAXで簡単な文を書いて送る方もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な共同空間で、ご利用者様が安心して居心地よく過ごせる様に工夫し、各部屋の掃除をスタッフと一緒にを行い、季節に合わせた飾り等をみんなで力を合わせて作り、食堂やリビングに飾っています。	新型コロナ禍以前は専門の清掃業者が入っていたが、現在は職員が共有空間の清掃をすべてしている。大型の加湿器付き空気清浄機を食堂とリビングにおいている。窓を開けた換気や、更に手に触れるところはアルコール消毒をして感染症対策をしている。リビングには季節に応じた手作りの作品が飾られている。テレビの前にソファが置かれ、利用者はくつろいでテレビを見たり、利用者同士で談笑をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の好きな場所でご自身のペースで過ごしたり、時には皆さんと談話して楽しめる様に環境を整え、職員が声掛けを行い、ご本人の希望に応じた場所を勧められる様に工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご利用者様に馴染みの深い物、使い慣れた家具、飾っておきたい物等をご持参いただき、好みに合った物の中で安心して過ごしていただけるようにしています。	介護ベッド、クローゼット、防炎カーテン、エアコン、照明が据え付けられている。好みの家具や仏壇、遺影、位牌、家族写真などを飾っている。般若心経の写経の額、手作りの作品、ぬいぐるみなど	

				を飾っている方もいる。また、かわいいものが好きな利用者が喜ぶような居室の飾りつけをする家族もいる。手作りのクリスマスリースなどを部屋の入り口に表札代わりに飾っている方もいる。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアには見やすいネームプレートを掛け、トイレ、浴室等はわかりやすいように表示して迷わず移動できるようにし、ご利用者様の力を活かしています。			

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 GHみのり丸ちゃん・山ちゃん

作成日 2022年 3月 26日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	ご利用者様、一人一人の人格の尊重	ご利用者様の人格を尊重し、思いに寄り添った支援を行う。	ご利用者様の日常の言動から、思いをくみ取れるように心がける。尊厳に配慮した丁寧な言葉遣いをする。	12ヵ月
2	49	日常的な外出支援	新型コロナウイルス対策をとった外出支援を行う。	近隣の公園への散歩を復活させる。定期的なドライブを計画し、実行する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。